| | | 明治2年刊『官許・官准』新聞・記事目録 (1) 『中外新聞』 |
|---|---|
| 作者 | 寺島 宏貴 |
| 引用 | 書物・出版と社会変容 (2016) 03月号 |
| 学術機関 | 三共出版 |
| 本誌 | 三共出版 本誌 |
| 期刊名 | 三共出版 本誌 |
| | 本誌の文献数等に関する記事を掲載 |
| | 本誌の文献数等に関する記事を掲載 |
| | 本誌の文献数等に関する記事を掲載 |
| | 本誌の文献数等に関する記事を掲載 |
| | 本誌の文献数等に関する記事を掲載 |
明治二年（一八六九）刊
官許・官准
新聞・記事目録（一）

寺島 宏貴

一 はじめに

本誌前号で筆者は、明治二年（一八六九）に相次ぎ刊行された『官許・官准・新聞の発刊過程、並びに記事傾向の分析を行った』。官許新聞は従来あまり重視されないメディアであり、官の規制を受けただけに未発達なジャーナリズムであった。しかし各紙の記事傾向は「権力反権力」という基準で捉えられるものではなく、さらに記事内容も太政官政府からの手本のように国内政治に留まらず国際関係、戊辰内乱の戦況、社会、そして論説や詩歌の投稿と多岐にわたる。今回、この官許新聞の記事を観察し、その内容を一覧表にして紹介する。対象とするのは、『中外新聞』である。

慶応四年（一八六八）六月に発刊停止に遭った『中外新聞』は、誌名に『官准』を冠して再刊した。それは実質、戊辰戦争に伴い慶応四年二月に発刊され、社会を惑わしめた笠で発禁となった同新聞の後続紙である。しかも、戦争の拙劣で指摘したように『中外新聞』初めとする官許紙は記事形式をほとんど変えずに発行を続けている。それならこそとされた背景としては、慶応四年八月の会津降伏と対外関係の安定『局外中立の解除』が、記事に対立するある程度の許容範囲を生んだとみられる。また統治機構の様々な部門が新聞メディアを持ち、その活動を公にすることは近代国家としての体裁の意味合いもある。
官許新聞の記事の特徴として、①戦況報道等による従来の特征を除く(3)日本赤軍の動向(2)関東制空の展開による「開化」の主導、そして③転載された建白書や論説の形式による「批評」の代理が挙げられる。新聞自体が直接評論を行うのではなく、記事形式によって「政治」への「批評」を行くのである。官許紙は旧徳川体制寄りの新聞紙として刊行されながら、同時にこの「批評」を通じて読者を「開化」に導くという二つのヴェクトルを併せ持つ。それはず、幕末以来の「公議・公論」の理念、メディアを通じたものを使った変容である。編集人は慶応四年時の新聞紙にとまって変わらず、「天下」という範囲からの政治参加者旧徳川体制の「遺臣」をその不可欠の構成要素とする「民情」を求める「公議」を紙上に実践したのである。☆☆

(1)この目録について

記事目録を作ることとは、各紙の記事群を今後の研究资源としてデータ化し、新聞史(メディア史)研究の他の学問領域に資することを念頭に置くべきだと思われる。本目録では記事見出し及び記事内容についておおよその摘録を行ったが、基本的かつ一般的な記事概要をなすものである(3)。記事目録の作成においては次のような項目を設けている。

A. 号数
1. 号数については基本的に「中外新聞」各号の第一丁表に記された数字を採録した。
発行月日
各号の第1丁表に書かれた
号数と同様に、『中外新聞』の記事見出しが見受けられる。後者については記事内容から判断して見出しを付与した。それ以前見出ちは（〜）で括っている。

記事内容については主として翻訳記事・政府布達類の見出しの数字については原本の通り漢数字を用いた。

記事の抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜粋を挿入した。抄訳等、見出しからでは内容を推測し難しい記事については抜粋を挿入した。読者を含む読者の多数、または正誤記事に限り自書は抜け。
<table>
<thead>
<tr>
<th>号数</th>
<th>発行年月日</th>
<th>記事見出し</th>
<th>記事・広告・刊記の内容</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 1    | 明治2年（1869）3月7日 | 二月下旬御勧書の写 | 新聞紙出板にあたり開成学校に願い出るよう触
|  |  | 新聞紙印行条例 | (略) |
|  |  | (中外新聞序言) | (略) |
|  |  | 英国ロンドン新聞の抄訳 | 唐国政府、欧米へ特派全権公使送りし事
|  |  | 三月六日横浜新聞紙ヘラルドの抄訳 | リンカーンの政策と南北戦争、リンカーン寡婦の事、横浜ドル相場勝負 |
| 2    | 明治2年（1869）3月12日 | 会津遣臣の御所置 | (略) |
|  |  | 横浜新聞紙の訳 | 近来のギリシャ＝トルコ間戦争の事 |
|  |  | 新聞紙出板値の案 | (略) |
|  |  | 東京の素養指南手習手贴の人数 | (略) |
|  |  | 外国入籍帳より贈りし書状の訳 | 箱館戦況の報道 |
|  |  | 新聞紙タイムスの訳 | 2月28日江戸湾にて蒸気船破壊、日本支那に在る英国兵隊総督病死了につき代理指揮、ボンベイ大火事何か |
|  |  | 新出書目 | 和蘭政典（神田孝平訳）、英国議事院議（福川論吉訳）、西洋放楽外編（去田賢省著）、英吉利歩兵兵法（上村又八著）、梅河春三校郷、新肄月誌（北門社蔵板）、疤帯金針（杉田玄瑞訳）、楽種説附通商雑誌 |
| 3    | 明治2年（1869）3月16日 | 勧書の写 | 公議所開局の勧書 |
|  |  | [公議所於て御下問、諸客・上士の所置] | (略) |
|  |  | [最近6年の茶と茶の輸出量] | (略) |
|  |  | 町茶の写 | 名主一同発止につき触 |
|  |  | 横浜新聞紙の訳 | 唐国鉄道の事 |
|  |  | 上海新聞の抄訳 | 唐国の特派公使連絡 |
|  |  | 下谷二港線薫にて出火 | (略) |
| 4    | 明治2年（1869）3月22日 | 三月三日行政官布告 | 待詔局開局につき布告 |
|  |  | [天皇、東京奉行へ出発] | (略) |
|  |  | [公議所公表出板につき重複記事は記載しない] | (略) |
|  |  | [蒸気飛脚船到来] | 蒸気船3艘横浜来着、友人築作貢一郎も同船便にて兵庫より帰着 |
|  |  | [小学校取締変革を御用仰せ] | 府県各地方へ人才教育のため学校取組方変革仰出 |
|  |  | [特令書に於て取組則を朝大へ焼上げる旨] | 島原より駿府府へ勤務発道 |
|  |  | [再表にて請願奉還を朝大へ焼上げる旨] | (略) |
|  |  | [官兵二校の東軍方へ発向] | (略) |
|  |  | 新聞紙印行例附録 | (略) |
|  |  | 三月三日横浜新聞紙ヘラルドの訳 | 箱館戦況の報道 |
|  |  | 議院開局の日をよめる歌 | (略) |
|  |  | 照會鏡観（宇部宮義綱） | (略) |
|  |  | [広告] | 桂家家元金龍丸 |
|  |  | [刊記] | 岸弘所 瀬戸物町 鳥居左衛門 |
|  |  | 取次所 馬喰町丁目 鳥居六三郎 |
|  |  | [広告] | 賀山陽書法 |
| 5    | 明治2年（1869）3月26日 | 槻倉藩の檄文 | 版籍奉還、郡制につき国足を商議確定すべき旨 |
|  |  | [近日横浜輸出人品の景気] | (略) |
|  |  | [出版広告] | 西洋製方（黒澤孫四郎）、外国銃械（柳河春三）、博物新編補遺（小應篤次郎） |
|  |  | 外国新報 | フランスで金銭新訳、イスパニア女王は帰国能わずフランスに別邸設ける、ローマ教皇即位24周年ほか |
|  |  | 博物閣の儀に付建白書（小臣様村千之助等） | (略) |
|  |  | [東京へ天皇在幸を中止する議論] | (略) |
|  |  | [出版広告] | 公議所日誌 |
|  |  | [刊記] | 明治二年官許行 福河氏縁版 |
|  |  | 発売 東京本町四丁目 上州屋悠七 | 142 |
| 6 | 明治2 (1869) | 3月30日 | [横浜新聞タイムスの訳] | 去る19日フランス人2名日本人により襲撃され重傷
二月二十四日新設の事件 | 新聞を接討後に改める旨
郡県議（津田喜一郎）
御蔵倉 | (略)
諸臣議論 | 天皇・皇太子・太上天皇議論
諸臣議論 | 方今の諸臣議論
| 7 | 明治2 (1869) | 4月5日 | [天皇の風箏、東京城へ到着] | 宮内大官出迎え
喜公議堂開催 | (略)
東京府十数内相等（植山内相等） | 大会植山内相等
三月二日にハルトの訳 | 箱館戦争の報道
イギリス女王誕生日の事 | (略)
横浜海軍の外国人タイヒス熱病 | (略)
船軍記載の補 | 箱館戦争の報道
少年学を奨するべからざるの啓言 | (出版広告)
[出版広告] | 宮内議論簿・學術事始
| 8 | 明治2 (1869) | 4月11日 | 四月六日南部藩よりの御届書 | 遣使の歴兵5名青森へ護送
余考【四月二日横浜新聞紙の抄訳】 | 阿州の船支弾丸の由来ほか（全文は第7号に同じ、また遠近新聞第3号掲載との協書あり）
雑說 | 怪我せし英國メレンジー快速横浜へ出立、日本橋外所へ
| 9 | 明治2 (1869) | 4月16日 | 『旧幕府にて雇用したフランス陸軍教官へ当分願』 | (略)
簿記御届書井に降人姓名書 | (略)
御寄書の写 | 外国へ銅輸出につき
外国人横浜にて女子を打撲の一件 | (略)
四月八日出板横浜新聞紙の訳 | ニューヨーク号にて九鬼長門守ら日本人400名来航、唐国
| 10 | 明治2 (1869) | 4月20日 | 郡県議（昌平学校寄宿生 五島・松尾龍齢、薩州・鳥津寺二助→明治系山内公、判学事本部） | (略)
英漢新聞紙の訳原本ロンドン刊行三百十一号 | ナポレオン生誕百年でフランス皇帝父子コルシカ島旅行、
英漢新聞紙の訳 | イタリア国内で政府を発し合衆政府を発
兵庫新聞の訳 第九号の続き | 神戸居留地にて会社設置のため外国人商議、居留地内開
| 11 | 明治2 (1869) | 4月26日 | 『外国人への粗暴の所行の者これであるにつき心得違い
無きよう報答あり』 | (布告文なし)
発見吉田医局の告示 | 治療希望の者に告示
第九号横浜本村清次郎妹の一件の続 | 日本人女子打撲一件
【加茂桜花殿営行につき御弔喪の儀式】 | (略)
【学校官部知事、制度審議の速報等人込】 | (略)
【駕蓮前島來助、出雲築城築平建白書】 | 漢学を廃し國文を定める事(要点のみ)
| 12 | 明治2 (1869) | 5月2日 | 箱館の新報告 | 箱館戦争の報道
珍稀裁判の話 内国新聞抜抽出 | アメリカ東洋イギリス領での裁判
四月廿日出版新新聞の訳 | 箱館戦争の報道
過三刷利原（サンハレク）島華波尾（ナポレオン）帝墓（伝
秘本式作証） | (略)
| 13 | 明治2 (1869) | 5月5日 | 唐国諸港観桜井に阿片貿易の事 | アメリカの雑事
ニューヨーク新聞紙局の話、駕航という樹皮（キユーペ）の
効用、北アメリカ洲間に物産開戻事ほか

143
<table>
<thead>
<tr>
<th>日付</th>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>14</td>
<td>明治2 (1869) 5月11日</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>明治2 (1869) 5月15日</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>明治2 (1869) 5月19日</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>明治2 (1869) 5月25日</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>明治2 (1869) 5月28日</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>明治2 (1869) 6月5日</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>明治2 (1869) 6月15日</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>報告内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>論進士及第講 (佐倉議員依田右衛門二郎) 人材登用法の有益 (公益所議案の全文。公益所日記) のものは大略ののみとしている</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>外国新聞の訳</td>
</tr>
<tr>
<td>一一号軒名の転 &quot; 11号掲載政府内人事件の続き &quot;</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>出版条項 (付・附録)</td>
</tr>
<tr>
<td>箱館報先日盛岡にて脫走兵に加わりし外国人は一定に認め</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>出版条項の続き</td>
</tr>
<tr>
<td>箱館報 (ヘラルドの訳)</td>
</tr>
<tr>
<td>箱館戦況の報道</td>
</tr>
<tr>
<td>印度人の話</td>
</tr>
<tr>
<td>聖書の紹介</td>
</tr>
<tr>
<td>事件の詳細</td>
</tr>
<tr>
<td>第五号の続き</td>
</tr>
<tr>
<td>脱走兵の加わり</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>外国新報</td>
</tr>
<tr>
<td>アメリカにて北方ロシア第25000方里買入、オランダのコンシェルゼネラール・ボルスブルク氏帰国、英国にてカナダ地方にて年少女を移入人種育する計画ほか</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>横浜新聞の抄訳</td>
</tr>
<tr>
<td>英米間でアラバマ船一件の交渉、清国使節在仏中</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>郡書論 (細川潤次郎)</td>
</tr>
<tr>
<td>箱館戦議 (略)</td>
</tr>
<tr>
<td>郡書論 (略)</td>
</tr>
<tr>
<td>郡書論 (略)</td>
</tr>
<tr>
<td>新経新書 (略)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>外国新報</td>
</tr>
<tr>
<td>イスパニア兵とキューバ兵戦闘、英仏会盟してイタリアの立法を助ける為に</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>箱館報新</td>
</tr>
<tr>
<td>箱館戦議の報道</td>
</tr>
<tr>
<td>事件の詳細</td>
</tr>
<tr>
<td>新経新書</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>松本藩内山総之助衛士の写</td>
</tr>
<tr>
<td>増多事人の名号新纂の事</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>新経新書</td>
</tr>
<tr>
<td>洋兵明鏡、英軍軍薄諺法、旗章説略、比叡氏英文表 (以上、慶應義塾附属)、化学入門外解 (桂川岩策、石橋八郎)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>令天の東京行幸中の中エピソード</td>
</tr>
<tr>
<td>イタリス王子不日来着の旨</td>
</tr>
<tr>
<td>英国コンシェル病死</td>
</tr>
<tr>
<td>5月24日</td>
</tr>
<tr>
<td>品川通り中</td>
</tr>
<tr>
<td>馬車</td>
</tr>
<tr>
<td>斬り掛かれ</td>
</tr>
<tr>
<td>諸士武</td>
</tr>
<tr>
<td>日付</td>
</tr>
<tr>
<td>------</td>
</tr>
<tr>
<td>6月19日</td>
</tr>
<tr>
<td>6月29日</td>
</tr>
<tr>
<td>7月9日</td>
</tr>
<tr>
<td>7月20日</td>
</tr>
<tr>
<td>7月24日</td>
</tr>
<tr>
<td>8月6日</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【参考文献】
1592年西洋文を以て日本文を書きたための演説

【ふりかげ】
- 規制奉還、郡県制につき建白書
- 大中小藩の藩主を藩知事任命
- 横浜新報の説を改正
- 職員令制定
- 七月二三日大風の記
- 横浜新聞の説を改正

【なお】
- 西洋舶来酒類、葉子類 (浅草森田町、島屋新右衛門)
| 明治2（1869） | 8月16日 | 外国船買入の儀に付御奉書 | (略) |
| | | (岩橋県規定にて品見国大 előきを設置、その他の業物令) | (略) |
| | | 留守用書(市川富言) | (略) |
| | | 横浜新聞の訳 | 美国王子をる3日東京より横浜に来着す |
| | | (根本武儀、大島主介を電典に処す) | (略) |
| | | (医師松平良順は静岡藩内にて調査) | (略) |
| 新出書目 | 英国歩兵操練図解・小隊兵(林本郎兵)、仏蘭西騎歩兵式(田邊良輔製版)、英国兵法(福地原一郎訳) |

| 明治2（1869） | 8月26日 | (蝦夷地を北海道と改称する布告) | (略) |
| | | 孝子の褒賞 | 神田相生町顧大輔、養父政之助の市政代わりを勧めるつぎ褒賞 |
| | | 官給服制的の事 | 北海道の官位職制、並びに大蔵省よりの官給服制 |
| | | 福州港主馬鈴の測定(福徳屋外三郎) | (略) |
| | | 近刻書目 | 官板和蘭学則(内田正雄訳)、帝新絵話(麻生服吉訳)、兵学要、雷砲放射表 |

| 明治2（1869） | 9月2日 | (松平慶永民部築、大学校別当兼侍読へ転任) | (略) |
| | | 信州上田馬崎の事 | (略) |
| | | (静岡藩内住の士に分与せらる詫せ) | (略) |
| | | 外国新報 | 蒙国猛暑と風雨ありて米倉勝貴、スネルが日本人をカリフォルニアに開発のため移住させる、肥後侯より英国へ注文のコレベット船来るほど |
| | | (皇后、東京行啓) | (略) |
| | | 読書の写 | 檜山内多羅に付き観る篤者の日和を充たす |
| | | 萩野二条公より御詔の写 | 敷殿の出でて官給五分の一を寄附する旨達 |
| | | 日記の抄録(少博士春陽) | 8月29日大師校別当松平春龍亀城文校へ入来ほか |
| | | (出版告) | 頭書入献世義図書(慶應義塾蔵版)、西洋雑誌・卷6より(開物社蔵版) |

| 明治2（1869） | 9月6日 | 獅院取建方の儀に付建書自(大聖寺築・山田来相郎) | (略) |
| | | 外国新報 | トルコ・エジプト開立は迫和仏、プロイセン・フランス間戦争の報は浮誇、清国・アメリカ間に条約締結ほか |
| | | 横浜新報 | 5月25日～9月5日までの輸入高、9月5日頃の砂糖と米の大相場 |

| 明治2（1869） | 9月17日 | (伊勢内外宮御講座御祭礼無前落語を述えたる由) | (略) |
| | | (芝神明社御殿) | (略) |
| | | (天皇、近日中に横須賀製鉄所を観覧) | (略) |
| | | (イギリス王子、北京に到着) | (略) |
| | | 再起金剛山札幌築頂 | (江戸官士従軍隷行地方世尚寺氏関係内) |
| | | 美徳国にて一揆を平定せし事 | (略) |
| | | 鹿児島藩の願書 | 旧幕府の大罪をつき状を陳述し天裁を仰ぐ外これをなく評議ありたき願書の雛型 |
| | | (オーストリア公使と外務省官員、通信条約締結につき応接) | (略) |
| | | アメリカ鉄道の事 | (略) |
| | | (蒸気飛腳船)シディ、オフ、エド(出帆時刻) | (略) |

| 明治2（1869） | 9月28日 | (天皇、集議院に在席) | (略) |
| | | 静岡藩への御詔 | 間川慶孝への詔を出て譲渡免させるる事 |
| | | 鹿児島藩(水石川絵本改命され鶴田と称す)への御詔 | 本藩上之高橋家をえて譲渡上書 |
| | | 火山噴火の事 | 信濃松山の火災々より多く火山噴火の出来 |
| | | 第一一番前島・松崎二子健自書の評 | (略) |
| | | 第二一番の義議 | (略) |
| | | 鹿児島藩賞人を辞する上表の写 | (略) |
| | | 外国新報 | ドンマーク聖子とスウェーデン王女婚姻相撲ひと |
| | | (出版告) | 宮坂集議院日誌 |

<p>| 明治2（1869） | 10月10日 | 二番の続き 鹿児島藩の再願書 | (略) |
| | | 東京港詰文書十件の内絵(村山老人) | 大沼枝山の歌五首 |
| | | 太政官御布告の写四通 | 大宮県を浦和県と改称、兵務省通商司にて金札至急製造、東京中非人取調課健の著者里引渡(以上9月付)、官位相当表の通り官禄を立つ(10月付) |
| | | 第一九番に出する産物考略の続き | (略) |
| | | (英仏読学者著者、於浅草) | (略) |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th>日付</th>
<th>件名</th>
<th>議題</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>35 10月19日</td>
<td>大政復古有功の賞典を行わせられし事</td>
<td>三条実美・岩倉具視以下賞典書上</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>カラフトよりの書簡の写</td>
<td>權太にてロシア覧一隻来著、我が国諸侯臣人の応接を待たず暴行し追々上陸</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>職名数がの儀（松兵衛吉之介・松の根見一郎）</td>
<td>宮内府外局長河原直次郎</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>已に九月大正二年勧告预定規則</td>
<td>矢田副知事（内務省）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>勧告の写</td>
<td>西洋型の帆船・蒸気船自今百姓町人に至るまで所持差許</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>大政御勧告の写</td>
<td>今般新銃銃鉄造するも北海道開拓のため銃造增</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>正報</td>
<td>(出板広告)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国新説</td>
<td>英学入門（石川長次郎）、婆羅新論二編（同）</td>
</tr>
<tr>
<td>36 11月8日</td>
<td>(宮中にてテレグラフ敷観)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国新説</td>
<td>天津条約改正のためオールコック上海業者ほか</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国新説</td>
<td>花松7月に小泉原大堤に従い長崎に投じし折の手記</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国新説</td>
<td>英吉利大学事定を刻む布告（北前之持長山東一郎）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国新説</td>
<td>オーストリア帝領地一揆平定のためスアール運河見物御尺帰国、清国の商人とネリに通商せんとす、世界に珍しく短人「トムソン」近日横浜来着ほか</td>
</tr>
<tr>
<td>37 11月20日</td>
<td>三十五号の正誤</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>医道の事に付件自署写（染田直助・井上松明・松本田生）</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(大村文部大臣宛)(略)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(東京医学校医師）ウィスペ（渡辺正一郎）</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>唐国新説</td>
<td>唐国諸港の役人汚職と唐人等による英人の打撃を執らざんが為オールコック来清</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>外国雑報</td>
<td>フランス帝ナポレオン劒斎より急件、イタリア王位定まるら、英吉利海師台湾島にて興風に遭遇</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>アメリカ」メシコン」を治む東方</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>新式打切蒸気船 名シチチ・オフ・エド</td>
<td>(新型蒸気船シティオフ・エド出帆の広告)</td>
</tr>
<tr>
<td>38 12月7日</td>
<td>唐国の曆并一二月晦日日食的事</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(出板広告)</td>
<td>日明治二年官版中外通説</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>御纂典の事</td>
<td>御政政維新以来公卿に御裁賞（徳大寺実則、副島種臣、大臣重信ら）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>横浜新聞の抄訳</td>
<td>「サンドウィス島へ赴く使臣上田氏をサンフランシスコに到着、日本の一貴族「サダハラ」公ニューヨークへ旅行、スアール運河航行盛で、居留地廿番検事人罪名招ふほか</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(英国医師ウィスペ篤行へ行く代りに亞国医師レモンス赴任)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(今冬は恒盤極甚、寒陽望は21度まで下る)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>天長節賀御酒於議員皆賀賀思之己己九月廿七日子末於集議堂賀賀以最敬事)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>集議院に臨む際神戸・長尾・土浦ほか各議集議院議員 pedestrians)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>東京証券（江南）（大沼厚松山）</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td>39 1月12日</td>
<td>(明治二年の回顧)</td>
<td>箱館平定・江戸新制は日出度き、時事局報の落成・築地電信機の昭和の盛事</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>鹿児島藩にて国中之師へ論文の文</td>
<td>吾藩に英臣ウィスペ氏格賀にあたる漢士古今の医書に代わり西洋医書書を取るべき旨の論載</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(大学隆校にて日本学学士の稽古始まる)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(出板広告)</td>
<td>海軍沿革論</td>
</tr>
<tr>
<td>40 1月26日</td>
<td>英国公使の書簡並に本国宰相書簡の訳</td>
<td>(英国特派全権公使パークス＝豚・寺師外助卿) （同）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(明治二年の回顧)</td>
<td>英国王子日本訪問時につく英国女王・政府より謝辞の旨</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>明治の儀に付件自署写（京橋徳之位）</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>水戸藩致知事へ請仏の箋書写三通</td>
<td>御三度大師言念光・同義昭に従三位宣下</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(万里小路詔へ千葉道三郎・安吉の女弟子を招き薬刀仕合)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td>41 2月12日</td>
<td>(仁和寺寺、東伏見宮に改称)</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>長州騒乱の一例</td>
<td>寄兵様なるもの国内要所に閲関を設けて百姓一揆を催せし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>山口藩よりの信書</td>
<td>去冬兵制改革一条より謹慎せし隊卒へ臨機に取詰うにつき</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>議院考一則（斑華操）</td>
<td>(略)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>新出書目</td>
<td>電鉄機関（福沢諭吉）、西洋料理通、万国故事談、英吉利方、開物新書二集（雀義論）、同三集（洋酒説）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>(広告)</td>
<td>中外屋、紀伊国屋出兵の書庫開店</td>
</tr>
</tbody>
</table>